



『夏休みになったらやりたいこと』

生理学の勉強ノートの隅に殴り書きしたリストのことを、わたしはふと思い出した。

夏休みに入って、2日目。

8月中旬に設けられている実習の打ち合わせの帰り道(片道45分)を自転車で走っていた。

実習先の所長さんに、

「よくそこからここまでスーツにヒールで自転車漕ごうと思ったね！」

とびっくりされてしまった。

じゃあわたしも利用者さんたちと一緒に送迎してもらえないかな！という淡い期待は、「じゃあ16日から自転車、がんばってね」という一言で簡単に打ち砕かれてしまったのだけど。

ダイエット真っ最中だったけれど、結局途中にあるスタバに寄って、コーヒー2杯とキャラメルなんかチーズケーキを堪能した。途中、友達カップルが通り過ぎるのを見かけて、心がくしゃっとなった。

早く帰ってこないかなあと思いながら、2杯目のドリップコーヒーをすすった。

誰を待ちわびているのかは、またあとで書くことにしよう、そうしよう。

スタバから帰る途中の信号待ちで、なんでこんなことを思い出したのかはよく覚えていないけれど、ふとリストのことが浮かんできた。

家に着いてわたしは早速「らくがき帳(笑)」と書かれたノートを開いた。

わたしの努力の結晶(とりあえず大事そうなのを覚えようぜ！と意気込んで一夜を共にした無印のノート)には、ヘマトクリットやら赤血球やら肝臓の働きなんか、ボールペンで字の通り殴り書きされてあって、半分はなんと書いてあるか自分でも読めない。

「...よくこれをテスト前に見ようと思ったな、当時のわたし」

ページを繰っていくと、それはあった。

『夏休みになったらやりたいこと』

同じように、殴り書かれてあった。

「パブーに作品(笑)をあげる」

「夏休み中は昔のように本の虫になる」

「太らないように走る」

「ラジオ体操するwww」

などなど。

(本文はそのまま引用させていただきました)

ああ、つまりわたしは何もせずにひきこもりたいんだな、と悟った。
自分の本音、普段は分からない深層心理は追い込まれたときに顕著に表れるものである。
現れる、でもこの場合は間違いではない。と思う。

バイトもない暇な時間を持て余している今、当時のわたしの願いをかなえてやろうじゃないか。
と、思った。

どうせ、遊びに誘ってくれる友達もないのだし、誘ってもらえたところで現在の危機的な経済
状況では飲み会に参戦できるわけもない。

(参戦、という表現を使ったのは、いわずもがな、わたしの参加する飲み会は毎回戦争になるから
である。)

そんな流れがあって、現在ぱちぱちとブラインドタッチの練習をかねてわたしはキーボードを叩
いている。

文章の推敲なんてしない。

あくまでも自分の書きたいように、思い浮かんだことをつらつらとブログのように書き留めてお
くのが目的なのだから、それでいい。よしとする。

そんなわけで、この文章はあくまでもどうしようもない大学生が普段自分の思っていることを書
き留めておいて、あとで振り返ったときにニヤニヤするために書かれていくものです。

読んでいてとても不快に思うこともあるでしょう。

共感できる部分があるとは正直思いません。

思えません。can'tです、キャント。

こんなくだらねえ人間もいるんだな、
とってくれたら、それだけで幸せです。

由夏